

第1回旭川市合葬式施設検討会議

- 1 日時 平成27年7月1日(水) 18時30分～20時30分
- 2 場所 旭川市役所 総合庁舎2階 秘書課第2応接室
- 3 出席委員
 - (1) 出席委員9名
雨尾委員, 石坂委員, 佐藤委員, 玉手委員, 信木委員, 三上委員, 三島委員, 宮嶋委員, 箭原委員
 - (2) 欠席委員1名
杉野委員
- 4 事務局
西川市長
事務局(市民生活部)4人
今野市民生活部長, 林市民生活課長, 成田市民生活課長補佐, 鈴木
- 5 会議の公開・非公開
公開
- 6 傍聴者の数
0名
- 7 会議資料
 - ・ 次第
 - ・ 資料1 合葬式施設について
 - ・ 資料2 市営墓地・旭川聖苑位置図
 - ・ 資料3 共同利用出来る合葬式施設整備の基本的考え方
 - ・ 資料4 他都市合葬式施設に関する調査結果
 - ・ 資料5 旭川市合葬式施設検討会議スケジュール(予定)
 - ・ 資料6 旭川市合葬式施設検討会議設置要綱
 - ・ 資料7 旭川市合葬式施設検討会議名簿
 - ・ 資料8 旭川市合葬式施設検討会議の会議公開等に関する取扱いについて

第1回旭川市合葬式施設検討会議の記録

1 開会

2 挨拶

西川市長

3 委員紹介

第1回目の会議のため、事務局から委員の紹介を行った。

4 検討会議について

事務局から資料8に基づき説明を行った。

5 議題

(1) 座長・副座長選出

互選による選出について諮ったところ、委員の発声により事務局に一任されたため、事務局案として座長に信木委員を推薦したところ了承された。信木委員から職務代理人として宮嶋委員を指名し副座長として了承された。信木座長及び宮嶋副座長から就任の挨拶がなされた。

(2) 市から経過報告等

事務局から資料1～7に基づき説明を行った。

(3) 意見交換

発言要旨は、下記のとおり。

(4) その他

なし

6 閉会

〈発言要旨〉

(座長)

ただ今、事務局から説明があったが、本日は第1回目の会議であり、事務局の説明を聞いて、これまで自分で抱いていた合葬式施設のイメージなど何でもよいので、皆様から一言ずつ頂戴したいと思う。

それでは、お願いします。

(委員)

私のイメージとして合葬式施設は、無縁の方や身寄りのない人のためのものというイメージしかなく、墓地の片隅に埋もれてあるようなイメージであったが、今回の会議において合葬式施設の資料を見て考えたとき、旭川もだんだん後継者がいなくなってくるため、このような施設は整備していただきたいと感じている。

(座長)

ありがとうございました。次の方お願いします。

(委員)

まず現状の各墓地において無縁になっている墓は何パーセントあるのかや各墓地において建立可能な区画、範囲がどの程度あるのかということが基本になると思う。その数字について知りたい。

(座長)

ありがとうございます。

(今あった質問について事務局から) お願いします。

(事務局)

今、御質問があったことについて、実際に無縁化しているような墓が市営墓地にどの程度の割合であるかについて正確な数字はおさえていない。使用している方が問題なく使用している分には、市との接触がそれほど頻繁にあるわけではなく、節目節目でやりとりがあるが、これ以外は常に接触があるわけではない。墓地の管理をきめ細かくできればよいが、実態としてそこまでできていないこともある。市営墓地における空き区画と今後許可できる件数については、現在主に使用している墓地は、全て待機者がいる状態であり、区画が返還された際に新規使用許可申請している待機者の方にやっと案内できるというのが市営墓地の管理の仕方である。

また、先ほど説明した追加資料の2の数字の見方について、ここでの年度別使用許可件数というのは、まず、待機者の順番は市営墓地の新規使用許可の申請順により決めており、この資料における神居墓地の平成26年の10という数字は、10人の方に区画の使用を許可した数字である。そのため、市営墓地に空き区画はない状態であり、区画の返還を受けたり、ほかの都市にお骨を移すことにより区画が空いた場合に、その区画について新たに使用を許可した数字がこのような推移をしているということである。

(座長)

次の方お願いします。

(委員)

空き家が増えて、その空き家の処置をどうするかという課題と同じように、墓を守る方がいないことがある。私には娘が2人いるが、家としての墓を建立したが、娘2人になったので墓石を取り替えて先祖代々と刻んだ墓にした。娘は2人とも本州に行ったり外国に行ったりしているため、今後どのようにしていくかということで個人的にも悩んでいる。そういったことを考えていくと、やはり子や孫たちに負担をかけないためにも、安心して入ることができ、しかもおしゃれなところに入れればよいのかなという思いでいる。それと空き家の数が増えている問題と同じだが、他委員の方がおっしゃったように、無縁化した墓がどの程度あるのか、大変難しい調査だと思うが、これをきっかけにそのような動きも並行して会議とは別に行う必要があると思う。今後の見通しを立てた上でのコメントを最終的に作ることでできればよいと感じている。

(座長)

ありがとうございます。次の方お願いします。

(委員)

私の妻が亡くなってから今年の8月で4年目になるが、遺骨を自宅で保管している。もちろん私と妻の両家にお墓はあるが、妻が生前に両方の墓には入りたくないと言っていた。私としてもどこに納骨するかを考えた場合に、家族はとも仲がよくお墓には納骨したくないという思いで現在、自宅に保管している。将来的にはどこかに納骨しなければならないと思っているが、市内において宗教色がない納骨施設としては、動物園の近くにある旭山廟という場所しかないのかなと考えている。横浜市在住の私の一番上の兄も私と同じく妻が先に亡くなったため横浜の墓地に納骨しなければならなくなった。その際、横浜市には樹木葬があった。私も先ほどお話した現状にあることから、昨年横浜市の樹木葬が、どのようなものなのか興味を持ったため見学に行ってきた。横浜市では広大な場所に3つの樹木葬があった。兄夫婦がその樹木葬の使用手続をしており、兄の妻は先に納骨されている。ただ横浜市では、樹木葬について散骨の方式をとりたかったようであるが、住民の感情的な反対があり残念ながら遺骨を埋葬する樹木葬という形をとらざるを得なかったようだ。兄もそれについては非常に残念がっており、せっかく樹木葬にしたのに一生土には帰れないということを言っているのを見聞きしながら、私としては今回この検討会議の公募を目にしたときに、これは是が非でも妻の遺骨の件もあり、なおかつ私もそう遠い将来のことでもないため、旭川市が合葬式施設を検討しているのであれば、今の趣旨を声を大にしてなんとしても実現してほしいという気持ちで今回会議に臨んでいる次第である。今後の話の中で、自分としての理想と現実の兼ね合いをマッチできるように、そして最後は自分も委員になって、将来旭川市の世話になったという気持ちで逝きたいと思い今日臨んだ次第である。よろしくお願いします。以上です。

(座長)

ありがとうございます。次の方お願いします。

(委員)

意見の前に事務局の方に質問が1つある。7ページにタイプ別として、メモリアル施設と納骨塚タイプの2つがある。メモリアル施設のデメリットは、建設費が大きくなるとあり、基礎の費用のことだと思うが、その次にある駅の彫刻参考基金額1,430万とはどういう数字なのか。

(事務局)

駅にあるもので、安田侃さんが造られた彫刻の参考金額である。

(委員)

承知した。つまり最初から彫刻を置くという前提で調べた金額ということなのか。そこで質問させていただくが、メモリアル施設と納骨塚タイプは、1ページ目に北海道の3つの自治体の事例があり、その下に大阪市の事例があるが、これがメモリアル施設ということであるならば、性格が違ってくると思う。建設費が大きくなることについて、例えば彫刻を1つ置くだけでも、この程度の金額がかかるという意味だろう。そのように捉えてよいのか。大阪のようなメモリアル施設の場合は、建物も建てているのか。

(事務局)

そう。

(委員)

そうすると数億円の金額になっていくということか。

(事務局)

費用として建設費が大きくなるというのはそういう意味である。

(委員)

承知した。それに対して納骨塚タイプでいけば、例えば小樽市の写真のような施設であれば670万でできているということが分かった。実際造るとなると性格も異なるため、建設費に相当な幅が出るものだというふうに捉えられるが、今回の検討会議として両方平行に捉えていってよいかということが私の質問である。つまり、合葬式施設を造るに当たり数億円の予算が必要であるという結論が最終的に出てもよいのかということである。

(事務局)

最終的に造るとなった場合、どちらかのタイプに決めなければならないと思うが、そこに向かうために、まずその必要性があるが、旭川市としてどういった施設を持つべきかということについていろいろな意見を頂いているところである。建設費用が高額な施設がありきでもなく、できるだけ予算をかけないように整備するということがありきでもないと思っている。そのため、検討会議で議論をしていただき、まさにこれが旭川市で必要とされている合葬式施設であるということがある程度見えてくれば、方向性として市としても大変参考になるという考えを持っている。

(委員)

私の個人的な意見だが、私はこのメモリアル施設というものに非常に興味を持っており、自分はこのような施設に納骨されたいと強く思う。例えば旭川に先祖代々のお墓を持っている方であればよいが、私のように道外から移住してきた者にとしてみると、なかなかお墓を建てるというわけにはいかない。私は青森の出身で実家に墓があるが、ほとんど帰れないため、草がぼうぼうと生えている状態が続いている。そういう状況は、私だけではなく多いと思う。その結果、無縁化しているという状況もある。自分はどうなるのかを考えたときに、自分が住む市にあるメモリアル施設にお骨のまま安置されて10年、20年経過したときに一緒に納骨されても構わない。例えば私が妻より先に死んだときに、とりあえず骨箱のまま安置しておいて、数年後に一緒に合葬するというイメージを持って

いたので、私はメモリアル施設に強い興味とイメージを持っていた。

(座長)

ありがとうございます。次の方お願いします。

(委員)

資料の写真には、札幌市の合葬式施設についてないのか。

(事務局)

ついていない。

(委員)

まだイメージとして自分のものというふうには考えられないが、札幌市のように、今他委員が言ったように希望者はすぐ納骨されても構わないと思っている。すぐ埋葬しても構わないが希望者や遺族の意見により、骨壺のまま一定期間は納骨堂に安置する形にすることも考えられる。

(事務局)

今おっしゃっているのは納骨施設が併設されたということか。

(委員)

札幌市は納骨施設が併設していると聞いた。

(事務局)

札幌市がそのようになっているとは、事務局としては把握していない。

(委員)

納骨堂に一定期間保管すると思っていた。

先ほど他の委員が言っていた樹木葬についても自然に帰るという意味では、予算のこともあるとは思いますが、自分の希望としては将来的に自然に帰りたいという気持ちがある。

(座長)

ありがとうございます。次の方お願いします。

(委員)

社会福祉協議会にある成年後見支援センターという、成年後見制度の相談を受ける窓口で時々、お墓も財産のためその相続のことや身寄りがいない方が自分の死後の世話のことについて任意後見という死後の事務の委任契約のような形で、自分の骨を面倒見てもらえる人がいないかという相談もある。そういった相談が旭川市近郊からもあり、事務局からの説明にあったとおり道北エリアで人口流入と高齢化がある中で、合葬墓を必要とする人数は非常に高くなりつつあるということは容易に想像でき、建設の方向についてはよいことだと思っている。ただ建設のイメージについて、他委員からも話があったように、7ページにはタイプ別の比較としてメモリアル施設、納骨塚タイプの2つが提案がされておりメリット、デメリットが示されているが、費用的にたくさんの人が祀られる場のため、とても綺麗で厳かで環境のよいところに越したことはないというイメージはあるが、費用のかけ方について、かけられるのであればかけた方がよいがある程度限界もあるだろうと思う。納骨塚タイプのニーズとして本市の特色的要素を持つ合葬墓という意味合いについて、その市民ニーズとして合葬墓が必要だということは分かるが、この納骨塚タイプのデメリットで挙げている、ニーズとしての課題に対応しづらいという意味合いがどのような意味なのか聞きたい。整備のためにある程度の費用がかかっても整備できればよいと思うが、ど

の程度費用がかかるのかを考えるとときにメモリアル施設の方には1,430万円とあり、最初見たときにはこの程度の費用かと思ったが、これよりも費用がかかるということだとすれば、現実的ではないのかなと考えてしまう。納骨塚タイプは670万円とあるが、本当にこぢんまりとしすぎるもので、せっかく旭川市が整備する施設として少し残念なことになるのであれば、きちんと考えた方がよいと思う。あとは、細かなルールなどについては、これから検討していくと思うがまずは全体的な建物のイメージをある程度整理し、考え方を定めていくことがスタートであるのかということを知りたい。

(事務局)

資料のニーズについての御質問をされたと思うが、最初に説明していなかったが資料の目的として、意見交換をしていただくに当たり全く白紙の状態でお話をしていくというのが厳しいと思い、また今まであまり馴染みのなかった話題でもあるため一応の方向性として事務局が現在考えていることについて数字も含めまとめたものである。今話のあったニーズについてはいろいろあり、本当にシンプルで、その分利用料金が安くてこぢんまりしたところがよいというニーズも当然あると思う。ただ私どもがこれまでお問合せですとか、機会があるごとにいろいろな方からお話を聞いている中では、割と広い公園風で人が集まって来られたりとか、節目節目に何か行事などができるとか、周辺の環境が整っていて見晴らしがよくそこに旭川市の特色が出せるとか、そういった声を聞くことが多かったものであり、納骨塚タイプのデメリットとしては、そういった声には必ずしも対応できないことがあるのではないかとということ。逆にメモリアル施設は、シンプルで質素なものを求めている人に関してはデメリットになるかもしれない。それだけの利用料金もかかるかもしれないなど、いろいろな条件があると思う。この資料においてニーズと書いているのは、そのような声を聞いていた中で考えられる合葬式施設のイメージについて資料5ページで説明をした。これだけを見れば何のことか分からないかもしれないが、市営で整備をしていく合葬式施設であり、誰もが合葬式施設ということが分かり、多くの人から受け入れてもらえるような施設を市の合葬式施設の方向性としてイメージしていきたいと考えている。そのようなことからいけば、施設について公園風がよいかは別であるが先ほどのニーズに通じるところもあるのであれば、あまり規模の小さいものだとこれを表現するのは難しいと考えている。もちろん検討会議において、いろいろな意見が出されてそこを改めていくということも考えられ、そういったところは皆様方の意見交換の中でいろいろと御提案いただければと思っている。

(委員)

東京の方面では後継者がいなくて船で海に散骨するというのを聞いた。小樽市にもそのようなことができる場所があると聞いたが、旭川市のように盆地で何も無い場合、大雪山などの山で散骨ができる敷地はないのだろうか。

(事務局)

今のところはない。

(委員)

北海道ではない。海に散骨するというのは聞いているが、山というのはない。

(委員)

今のところ芦別かどこかでやろうとしたが駄目になったと聞いたことがある。

(委員)

長沼かどこかでやったと聞いたことがある。

(委員)

大雪山連峰はまだ認められていないと聞いたことがある。

(座長)

次の方、どうぞ。

(委員)

今日、この会議があることを職場にいる夫を亡くした女性に話した際、合葬式施設を早く造ってほしいと言っていた。私たちの組織は毎年葬祭を考えるとということで、葬送セミナーというのを開いている。その年によって、葬儀社5社の方に来ていただき葬儀についての講演をしていただいたり、霊園の方に来ていただいたり、住職の方に来ていただいたり、散骨経験者の方に来ていただいたりして毎年実施している。今年は6月16日に開催しており、今年のメインは公証人役場の方からのお話ではあったが、民間の合同墓に契約された方、生前契約された方の経験談を御紹介をさせていただいたり、民間霊園の方に来ていただいて、今の実情についてお話ししていただいた。これまでも毎年のように市民の方から合同墓について意見を受けており、署名活動を求められることもある。私たちは、様々なことについて携わっており合同墓の署名活動はしていないが、そのような中で新聞に市の合葬式施設のことが掲載されたため今の状況について、まだお話できる状態ではないはずであるが、5分でもよいからということで来ていただいてお話ししていただいた。そのセミナーの募集は、30～40人程度と見込んでいたところ70人の募集があったため、急遽広い部屋に変更した。とても好評であり、来場した皆さんは市の方からの整備について前向きな説明を聞いて安心されていた。整備については今後のことですが、検討を始めたことに皆さん納得されていた。それから本日の皆さんの御意見を聞いていても、市の合同墓の整備に賛成の方がほとんどだと感じている。自分が納骨されるのであればメモリアル施設がよいと思っているが、そういう方が多いのではないかと思う。整備することが決まれば、どのような施設を整備していくか細かいことを決めていけばよいわけであり、皆さんは整備する方向にいらっしゃるようで私はうれしい気持ちであるが、使用料については公営だから安くしなければならないということはなく、お墓を建てたり納骨堂を買ったりすることや複数のお墓を持っている場合などには大変な維持費がかかる。そのようなことから考えれば、例えば20万円、30万円かかっても、安いと思う。合葬式施設を整備するに当たり、使用者として1,000人、2,000人程度を募集したとしたら、5,000万円程度の塔を建てたとしても採算がとれ、何億円かかっても整備できるはずであり、そう考えるとメモリアル施設を整備してほしいと思っている。そういったことを検討するためにも市民アンケートを実施していただきたいと思う。

(座長)

最後に私からですが、お墓を造ることは繰り返し造り直すわけにはいかないし、共同の合葬式施設となると後世に残すものでありそれを踏まえて100年先、200年先の人が、旭川市にある合葬式施設というのは旭川市に本当にふさわしいものだと皆さん安心してその施設を利用できるような余裕を持たせるといえるか、豊かな心になるという意味を持っているものであるとよいと私も思う。私からは以上。

一通り皆さんから御意見が出たが、まだ時間の方に余裕があるので、そのほかに何か御発言したい方はお願いします。

(委員)

私の知っている限りでは、本州から北海道に渡った人が多く、今70代の方であれば世代として3代目くらいだと思う。その方たちの話では、本州にあるお墓はお守りできないため、大体3代目に当たる方が整理をするようだ。お寺に全てをお願いして最後は無縁仏にして整理するというような方も私が知っている範囲で3人ぐらいいる。80歳に近い方の話であるが、兄弟が全国に散らばっており毎年集まってお墓の掃除を行っているが、それも今年で限界だということであった。そういうお話を聞いていると、お墓を建てるときに納骨堂やメモリアル施設というようなものは発想がハイクラスだと思う。そうすると皆さんが利用できないのではないかと思う。私はお墓掃除や納骨について考えたときに本州に行かれた人は、若いときはよいと思うが70歳代、80歳代で限界になり道内には来られないと思う。そう考えるとまずメモリアル施設ではなく納骨塚タイプの合葬式施設を先に手をかけたほうが、今の計画はスムーズに早く進むと思う。豪華なものになればお金のかかる話になり限定されることになる。私は自然環境のよいところで、北海道に来たと、旭川に来たという雰囲気のあるところに皆さんと一緒に納骨するのがよいと思う。

いずれにしても200年、300年後のことも想定していかなければ駄目だと思う。

(委員)

合葬式施設を整備するに当たり、市民で後継ぎがないため納骨したいと考えている人と1人暮らしや身寄りのない人もいると思うが、どこの誰か分からない方々も一緒に納骨するという感じなのか。

(事務局)

市には福祉保険部で管理している無縁仏の方を納骨するための塚は今もある。

(委員)

これからもそういう人がどんどん増えてくると思う。民生委員をやっていると身寄りのない人が亡くなったという話を聞くが、そういう方々も検討している合葬式施設に納骨されるようになるのか。

(事務局)

そういったことについても、これから議論していくことであり、どのようなルールにより運用していくかということではあるが、基本的には今無縁仏の方のお墓はあるという前提がある。

合葬式施設の整備の目的は後継者がいないことなどへの対応のために必要だということだと思う。

世の中が変わってきた中で、旭川市民としてほかの市民の皆さんと一緒に納骨されてもよいというニーズにどのように対応していくかということが必要になってきている。

(委員)

そういったことが目的ということで理解する。

(委員)

生きた証が記録されるというのがよいと思う。

(委員)

名前が書いてあればよいと思う。

(委員)

何年没とかも書いてあればよいと思う。

(委員)

資料には30年後までの人口と死亡者推計があるが、100年後ぐらいまで推計できるのだろうか。

(事務局)

誤差が広がるとは思いますが、人口はやはり下がっていく傾向になると思う。ただ死亡者数は、推計上はほぼピークに近いところだと思う。

(委員)

私があと20年生きるとしたら平成47年になり、そのときには6,700人が亡くなるようだが、後継者がいる方は自分の家のお墓に納骨されるだろうし、無縁仏の方たちのための施設もあるとのことであったので、亡くなる人たちが全員合葬式施設に納骨されるわけではないと思う、

(委員)

無縁仏の方の施設はどこにあるのか。

(事務局)

神居墓地に一つ小さな塚のようなものがあり、それは福祉保険部で管理している。先ほど委員もおっしゃっていた生活保護の方や行旅死亡人のような引き取り手のない遺骨を納める施設というものである。

(委員)

その施設は納骨堂とセットなのか。

(事務局)

そう。一定期間お寺の納骨施設に遺骨を保管して、それでも捜してらっしゃる方が出てこない場合、一緒に納骨するという塚である。

(委員)

そういった施設はこれから増えてくるのかもしれない。

(委員)

合葬墓として考えた場合、1つの周期は30年、33年だと思う。そういった契約により永代供養の費用も頂くことで、契約書類を交わすとよいと思う。お墓は1度建てると200年ぐらいもつ。自分の函館にある墓は日露戦争と刻まれているが、今も現存しているので大丈夫だと思う。

(委員)

私の知っている方で愛宕墓地にお墓がある方がいる。しかし、だんだん家系が絶えていって子孫が女性だけになってしまったため、そのお墓をお守りできなくなり、結局無縁になっている状態にあると聞いた。そういった状況になったときに、お墓を整理するお金もなく、感情的に整理したくないということもあるようだ。管理されていないように見える他のお墓もそのような状況と同じではないかと思っている。

(委員)

今、後継ぎがいるといっても1代限りのようだ。

(委員)

少子化で長男と長女しかいないということもあるのではないか。

(委員)

先ほど死亡者推計の話が出ていたが、先祖代々のお墓で5つ6つのお骨が納められているお墓の墓守がいなくなり合葬することになった場合には、その全てを納骨するという形になるのか。

(委員)

それは契約によるのではないか。

(委員)

墓じまいがこれから増えてくる中では、そういったこともあると思われる。

(委員)

沖縄の戦没者のように何年没と墓誌に名前が刻まれているような、50年後になっても誰がいたのかという生きて証が記録されるということが非常に大事だと思う。

(委員)

それがよいと思う。ドイツもそうである。

(委員)

道内の合葬式施設では、名前は一切書かないのか。

(事務局)

網走市では、希望者は名前を刻めるようになっている。

(委員)

どこかに台帳は作るのか。

(委員)

コンピューターでその記録簿は残していくのか。

(事務局)

使用者等の情報については管理できると思う。

墓誌については、管理面で大変だという話は聞いた。

墓誌に名前を刻むことなど、民間施設との役割分担についての議論は出てくると思う。

(委員)

横浜の保土ヶ谷区にあるイギリスの軍人墓地は、日本で1番美しいお墓だと聞いたことがある。

(事務局)

私もインターネットでその墓地を見たところ、ギターを弾いている人がいたり公園のようにとっても綺麗に整備されていた。

(委員)

そういった施設も素晴らしいと思う。

(委員)

ケースは異なるが旭川市が南さつま市と姉妹提携した際に行く機会があり、向こうには特攻隊の記念館があったのを見てきた。

(委員)

知覧のことか。

(委員)

知覧ともう1つある。記念館の周囲には温泉、野球場、サッカー場のように人が集まる施設があった。それを見たときに、こういった環境であれば特攻隊の少年たちは寂しくな
いんだなと感じた。このようなケースと違うとは思いますが、故人を偲ぶことができ、大勢の
人が気楽に集まれる場所がよいと思う。50年経過したときに草がぼうぼうに生え、故人
に寂しい思いをさせないような感じであればよいと思う。

(委員)

観光バスで旭山動物園に行き、その帰りにメモリアルパークに寄って行けるような施設
もよいと思う。

(委員)

自分は仕事の関係で公園を見てきたが、水の音が聞こえると人が集まるという傾向があ
り、林だらけの場所でも水の音でみんな集まって来るといようなことがある。

(委員)

そうであれば噴水のようなものがあるとよいと思う。

(委員)

そのような墓地を整備するとなった場合、これまでの墓地のような感覚では整備できな
いと思う。

(委員)

墓地というのは、これまではあくまでも家という単位であったが、現代人にはその仕組
みに入りきれない1人暮らしの方とか、独身で最後に亡くなった方のような方がたくさん
いると思う。その人たちの思いを考えたときに、旭川市に税金を払ってきた市民であれば、
やはり墓誌に名前が刻まれていれば知人などが墓参に来たときに感じ方は全然違ってくる
と思う。

(委員)

男女問わず親の介護のために結婚しない人や若い人たちにも結婚しない人がずいぶん増
えている状況がある。

(委員)

そういった方々も社会の一員として何がしかの役割を果たしたわけだから、やはり記録
されるべきだと思う。

(委員)

お墓を一つ持ったとしてお寺と付き合いをしていたら、少なくとも7、8万円かかり、
年間で考えると月参り、報恩講があり、永代供養料として納めている費用もある。自分は
6、7万円程度であるが、10万円程度支払っている人もいるのではないかと思う。

(委員)

自分のところでは、お葬式の他に月命日にはお寺の方が来てお参りしてくれるが、その
ときにもお布施している。自分には東京方面に娘がいるが、娘に東京ではそういったこと
をしないのか聞いたところ、希望する人がいないためお寺さんが来てお参りすることはな
いと言っていた。今後は、北海道もそのようになっていくのではないかと思っている。

墓誌には住所と名前くらいは刻んでほしい。

(委員)

私は土の関係の仕事に携わっているが、アルカリ性の土はあまり腐敗せず、湿度が高く酸性の土だと雨が降った後にリンが漏れて火の玉が出る可能性が高いことが分かっている。過去に、奈良時代の木管を採掘しているところに行った際に、その付近の土の成分を調べたところ比較的粘土質で高いアルカリ性であった。そういった土は劣化しない。ミイラがあるエジプトあたりの土はアルカリ性でしかも乾燥している。湿度があつて酸性が強いところは腐敗しやすい。微生物が発生しやすいためである。

(委員)

早く土になって生まれ変わった方がよいと思う。

(委員)

資料にある北見市と網走市は、石碑の下にお骨を納めるということか。

(事務局)

北見市の写真にある納骨塚という墓碑の後ろに黒い構築物がある。ここに扉があり、それを開いて骨壺から直接お骨を下に入れることになり、墓碑の下にお骨があるという形になっている。

(委員)

それは、土に帰るということか。

(事務局)

そう。骨のまま納骨し、カロートの底部分は土になっている。

(委員)

カロートはかなり広く、深くあるということか。

(事務局)

そう。

何メートル程度の深さかは分からないが、カロートの四方はコンクリートで囲っており、その底部分が土になっており、カロートは塚の下に設置されているというもの。

(委員)

そこにお骨を入れるということか。

(事務局)

そう。黒い構築物のところに扉が付いており、その扉を開け骨壺からお骨を下にばらばらと入れるという感じである。

(委員)

小樽市のカロートも同じようなつくりになっているのか。

(事務局)

そう。小樽市のカロートの底部分も一部土になっている。

(委員)

全てコンクリートの場合は、そのうちいっぱいになってしまうのではないか。

(事務局)

網走市の場合、施設が整備されている土地はある程度広く4号機まで整備できる敷地があるとのことであった。

焼骨は、土に帰すという考え方もあるが、念のためにコンクリートの底があるところに納めるという場合もある。それは、焼骨に対して有害物質がある場合も考えられるため

ある。

(委員)

地下水などに流れ出ないようにするということか。

(事務局)

そう。

(委員)

火葬しても、有害物質が残る場合があるのか。

(事務局)

基本的に無害の状態ではあるが、やはり世の中には有金属があるし、その人の生活の中では、その有金属が残るような体の場合がある。私が環境部でゴミの焼却場を担当していたときには、その焼却灰について特別な対応をしていた。それが人骨の場合にも気にする要素になる面はあるのかもしれないということ。

(委員)

なるほど、ただの炭酸カルシウムで済まない。

(委員)

葬儀業者から聞いた話だが最近遺体が腐りづらいと言っていた。

お棺に入れるドライアイスの使用量が一時期からみたら減っているという。

別の人から聞いた話であるが、今の子どもたちはかわいそうで死んでも腐りづらいと言っていた。それだけ食材に食品添加物だとか防腐剤だとか最初から入っているということらしい。私たちが死んでもしばらく腐らないようになっていると思う。

(委員)

腐らないということであれば、土に帰りたいたいという希望が断たれることになる。

(委員)

全く腐らないわけではないため、土に帰ることにはなる。

(委員)

遺骨を火葬する場所や火葬自体においても難しい部分があると聞いた。横浜市で埋蔵するときに遺骨を袋に入れて埋葬する予定だったらしい。具体的に分からないが、粉状の遺骨であれば土に帰りやすい方法もあるかと期待をするが、それが集合した場合に問題のある物があるとどこかに流れていくことも考えられる。俗にいう公害のような。そのようなものが発生するかもしれないということを知ると樹木葬による散骨という希望は、苦しくなったかなと感じた。

(事務局)

先ほど申し上げたのは、そういう事態で公害がおきているという意味ではなく、特に焼いた物に対してはいろんな意見を言う方は当然いらっしゃるし、今のところ法の規制では、火葬した物の管理ということに関して厳しいことにはなっていないということ。

(委員)

これからは分からないかもしれない。

(事務局)

これまでの意見交換において、散骨という言葉について白い袋に入れて埋蔵することを散骨とおっしゃっている委員もいらっしゃいますし、海にパウダーになった遺骨をまくこ

とを散骨とイメージされている方もいらっしゃいますが、委員さんのおっしゃっているのは、海にまくということではなくて袋に入れるということでしょうか。

(委員)

横浜市では袋に入れた形で埋蔵しようとしたが、付近住民の了解を得られなくてできなかったようである。そういった事例を知っているのであれば、事前に付近住民の方の賛同を得られる準備について考えなければならぬと思っている。

(委員)

20年連れ添った夫と一緒に納骨されたくない人など、さまざまな人がいると思う。

(委員)

昔はそのようなことを言う人はいなかったと思うが。

(委員)

自分の周りにもそのように言う人がいる。

(委員)

そのようなことは本当に厳しいと思う。なぜそのようになってしまうのか分からない。長年連れ添って定年になれば離婚するという中で一緒にの墓には当然入らないという前提があるようだ。

(委員)

東京で親戚の葬儀に行って来た方から聞いた話だが、火葬場ではほとんど粉骨に近いくらいまで火葬し頭蓋骨ぐらいしか残さないと言っていた。道内だと焼骨があれば最後まで拾いたいと思っている人も多いと思うが、時代と共にそのように粉骨になるまで火葬するようになれば皆さん抵抗なく一緒に埋蔵されやすくなるのかもしれない。

(委員)

私の妻の焼骨は首から下げているペンダントに入れている。

(委員)

置物にしたりペンダントにしたりする形は、はやっているようだ。

(委員)

置物にしたとしても、別にお墓というものは必要になる。

(委員)

子供と私とで、身近に一緒に亡くなった妻といつでもどこでも3人であるような気持ちになれる。

親の先祖の墓があるが、宗教のことで私は気持ち的に否定的でお墓に入れたくなかった。そのため、妻を送るときには自分なりに般若心経を唱えたりした。だから妻が死んだと考えておらず、向こうに送ったという考えでいる。だから今も遺骨を家に置いていても、いつでも3人で話しているという感じになる。

本来、妻の遺骨はそのままでもよいと思っているが自分もそろそろ時期が近いと思い、準備しなければならないという思いがある中で、この会議に参加させてもらっている。

(委員)

海などに散骨をする方でも、手元に少し遺灰を残しておく方が多いと聞いた。

(委員)

今遺骨を粉骨にする業者もいる。私たちが開催したセミナーの講演でお話ししていただ

いた経験者は、御主人の遺骨を御自分で粉骨したが、御主人の遺骨だから気が済んだとおっしゃっていた。

(委員)

私も65歳になり両親も80歳代で10何年前に亡くなっているが、カロートの中がいつぱいになったという理由で父の遺骨を親族とお墓の前で粉骨し、それから墓の中に入れたという記憶はある。

(委員)

最近の日経新聞に三百何十年続いているお寺でゆうパックでお骨を送るという記事があった。

ゆうパックに3万円と証明書とお骨を入れて、お寺に送れば全部供養してくれるというもの。

(委員)

個人では管理できないという時代になってきており、いろいろな形でそのような集散的に管理するということだと思う。東京の方では合葬墓ができたときに生前契約が多く、生前から仲良くしたいということで、いろいろなクラブができていると聞いたことがある。

お花クラブ、合唱クラブ、ダンスクラブなどいろいろと楽しいクラブがあるようだ。そういうのも楽しいと思うので、旭川でも是非そういうクラブを作りませんか。

(委員)

旭川市は街の中を買物公園にしたのが日本一である。今は買物公園は厳しいが、全国に先駆けて実施した。とにかく北海道の旭川市で樹木葬を実現したいと思う。札幌市に樹木葬はあるか。

(事務局)

札幌市にあるとは聞いていない。

北海道では雪が降るという問題がある。

(委員)

雪が降るからできないということでは全然面白くない。昔の旭川の買物公園を作ったときのムードや盛り上がりは私はぶつけないと思っている。できないというものを旭川でできれば、見学会に来られる方がいて、その結果として観光に結びつけられると思う。そういうものができたときには、将来的にもよいのではないか。

(委員)

私も賛成である。全国に対し大雪山のふもとで眠りましょうという発信をしていく。そうすれば見学に来る方が増え、ホテル、外食などにもよい影響があると思う。

(委員)

施設を整備するのであれば、旭川市が裕福になるようなことを考えていきたい。

(委員)

樹木葬であれば樹木の寿命の長いものを使わなければならない。

(委員)

旭川市には雪という問題もあるので、樹木について高いものがよいのか低いものがよいのか、どのように常に手入れができる状態にしていくのかなどは、これから考えていけばよいと思う。いずれにしても、旭川市でできないという考えはやめたい。できないという

ことをやらなければ買物公園はできなかつた。自分にも記憶があるが道路に車を止められなくなったときには、冗談ではないと思った。当然みんな同じように思ったと思うが、実現できたときには喜んだ。それと同じように樹木葬を整備することは大変でありいろいろな問題は大きいと思うが、完成したときには本当に自分たちもうれしい気持ちになり、地方の方が見学に来るということもあると思う。公園風に整備すれば遊びにも来てもらえるのではないか。夏に街でやっている大道芸のような公園的要素があればよいと思う。

(委員)

芝生葬というのがあると聞いたが。

(委員)

私が知っている樹木葬の下は芝生になっている。

(委員)

最近、お彼岸やお盆にお墓参りに行くと、お花等何も上がっていないお墓があり、かわいそうになる。合葬墓ができればいつもお線香やお花が絶えないのではないかと思うので、よいと思う。合葬墓の横には木や芝生を植えてみてはどうか。

(委員)

合葬墓の整備には使用者が増加していくことが考えられるため、土地の広さもかなり必要だと思う。

(委員)

災害がないとも限らない。今地球レベルであちらこちらで噴火しており、地球の創世記のような雰囲気がある。災害により大量に死亡者が出るということも考えられるため、キヤパは大きい方がよいと思う。

(委員)

今、神居墓地や他の墓地などでは、お供えしたものは持って帰らないとカラスやきつねに荒らされてしまうことなどがあるため、お参りした際には持って帰ることになっている。

(委員)

いっそのこと合葬墓を山の中に整備して、散骨するようにしてみるとよいのではないか。公園風で高台のようなつくりにして、樹海のようなものにしてみるというのはいかがでしょうか。

(委員)

韓国ドラマでそのようなシーンはよくある。

(委員)

そうすれば建物などにあまりお金がかからないのではないか。

(委員)

散骨について船上から海にまくときも、そのままいたら灰が船につくため水溶性の紙に包んでお花と一緒にまくというのを聞いたことがある。アジサイが綺麗だと思う。

(委員)

楽しいお墓を是非整備してほしいと思う。

(座長)

そろそろ終了の時間になるが、ほかに御発言はあるか。

(委員)

さきほど話に出ていた横浜市などの事例を次回以降の検討会議の中で、ビデオ映像など

で見られるようにしてほしい。

(委員)

大阪市の資料をインターネットから印刷してきたが、なかなか見ごたえがある資料である。花が植えてあり毎日誰かが墓参に来ていて花が絶えないように見え、施設としては地下が納骨堂になっているように見えるが、この資料だけでは分からない要素もある。皆さんとイメージを統一するためにこのような資料があると面白いかもしれない。

(委員)

私が先ほどお話しした横浜市の樹木葬を見に行った際の写真を持ってきているので御覧になってほしい。

真ん中にある樹木を中心として、周りを芝生にしている。

(事務局)

道内の施設を委員の皆さんと一緒に視察したいと考えている。

道外の施設も事務局で視察に行く予定もあり、検討会議での発表方法についてはこれから検討する。

(委員)

大阪市の施設の場合だと管理費をずっと負担しなくてはいけないのか。

(委員)

それはしないのではないかと。

(委員)

経済的にある程度の余裕のある人となない人とを分けた上で、誰でも入れるようにするという考え方もある。ある程度経済的に余裕がある方などは、自分と妻の遺骨は納骨堂に入れられるというようなランクを付けてやるというようなこと。

(委員)

使用料は1回限り納めればよいのか、生存している限り納めなければいけないのだろうか。

(委員)

コース別にするというのはどうだろうか。

(委員)

使用者が納骨堂を管理できる間は年間の管理料を徴収し、そういったお金がない方はすぐに共同で埋蔵するというような、いろいろなケースを想定して構わないのではないかと思っている。

(委員)

それぞれ事情が違う方も多いと思うのでそういった考え方もあると思う

(委員)

自分で勉強しようと思えば兄から送付してもらった横浜市の資料だが、御覧になってください。

(委員)

資料を見るとあまり高い金額でもなさそう。

(委員)

それぞれのいろいろな事情に添えており、よくできていると思う。

(委員)

埋蔵だけしてほしいという人などいろいろな人がいると思うので、現代のニーズに応えるという意味では、少し幅をもたせておいて構わないのではないかと思う。

(委員)

地元において合葬式施設にお世話になる方と、本州に行ってしまった方が本州に遺骨を持っていくこともできず普段も地元に来られないためお世話になるという方もいると思う。そういった中でどのような方をターゲットにして整備するのかということも考えていく必要がある。

(委員)

場合によっては、墓参に来られない方のためにインターネットでいつでも見られるとか、命日に法要をしてもらうなどいろいろな方法は考えられると思う。

(委員)

合葬墓の検討をしていく中でそういった提案は具体的にした方がよいと思う。

(委員)

いずれにしても旭川市が、今の高齢者にとって非常に優しい街作りをすることについて私は間違っていないと思っている。どこの街に行っても、みんな若い人のためにという理由で街作りをしているが、なぜそのようにしなければいけないのかと思っている。お年寄りが増えていく中で旭川市はお年寄りにとってこんなによい街だというアピールは大事だと思う。私の同僚に出身は本州で退職してから20年ほど経つが80歳を過ぎて現在も旭川に住んでいる方がいる。本州には立派なお墓があるはずなのに、なぜ旭川市に住むのかと聞いたところ病院がたくさんあるからと言っていた。

(委員)

そういった方が自分の死んだときのことまでを考えているかは分からないが、そういったことを含めて旭川市の施策は高齢者に対して非常に手厚くてよい街だというPRにもなるのではないかと思っている。

(座長)

ほかに御発言はあるか。なければ意見交換は以上とする。議題にあるその他の項目について事務局から何かあるか。

(事務局)

ない。

(座長)

なければ以上で質疑は終了する。

ほかに協議がなければ以上をもって終了とする。